

能率は良くないものの如くである。

多くの工場に於て、又最もよく働くやうに見受けられる工場に於ては、この高張期の二時間に於て、全一日の生産の三五乃至四五%にも達する生産をみるのである。之を以つてその作業振りを推察すれば、この高張期に如何に全力が集中されて居るか、又従つて如何に危険であるかが解ると思ふ。又作業時間の使ひ方が如何に下手であるか、又無計畫であるかも推測し得られるのである。工員の中體力の弱い者は、この僅々二時間の高張期作業に堪え切れず、従つて十時間勤務中の二時間を以つて全精力を消耗する場合も考へられるのである。或は又この反對に高張期を全然示さず、全一日中、グラ／＼と過して、働いたのか遊んだのか解らぬ場合も少くないのである。即ち、この場合には作業意志の發揚を全然見せずして、張合ひもなく家路につく、而して何か物足らぬ感じを抱いて何か他の事にハケロを求めらるやうになる。

以上の如く、工場の中には種々のものが存するのであるが、それを一々問題として採り上げることは出来ない。此處では唯正しい作業意志、正しい作業動作を以つて問題とする。正しい作業時間は、午前四時間、午後二時間、計七時間、勤務として八時間である。但し現状を以つてしては午前四時間、午後四時間の八時間作業、九時間勤務は之に準ずるものであることを示すに止めたいと思ふ。而してこの時間中を正當に働くならば、それ以上の時間は能率上よりみても安全といふ點よりみても、効果なきものと信するのである。

作業動作の分類(必要要素によるもの)

|    | 肉 體 的  |         | 精 神 的 |          | 作業中の注意 |
|----|--------|---------|-------|----------|--------|
|    | 姿勢動作範囲 | 必要筋力    | 習得技術  | 作業中の判断   |        |
| 1  | 全身     | 動的強く(重) | 不要    | 単又は複(一定) | 普通     |
| 2  | 〃      | 〃       | 要     | 〃        | 〃      |
| 3  | 〃      | 〃       | 〃     | 複一定      | 特に普通   |
| 4  | 〃      | 普通に     | 不要    | 単        | 普通     |
| 5  | 〃      | 〃       | 要     | 〃        | 〃      |
| 6  | 〃      | 〃       | 〃     | 複        | 〃      |
| 7  | 〃      | 〃       | 特に要   | 〃        | 特に普通   |
| 8  | 半身     | 〃       | 要     | 単        | 普通     |
| 9  | 〃      | 〃       | 〃     | 複        | 〃      |
| 10 | 〃      | 〃       | 特に要   | 〃        | 特に普通   |
| 11 | 〃      | 〃       | 〃     | 〃        | 特に普通   |
| 12 | 〃      | 静的緊張    | 要     | 単        | 高普通    |
| 13 | 〃      | 〃       | 〃     | 複        | 特普通    |
| 14 | 屈身     | 〃普通     | 不要    | 単        | 普通     |
| 15 | 〃      | 〃       | 要     | 〃        | 〃      |
| 16 | 〃      | 〃緊張     | 〃     | 〃        | 〃      |
| 17 | 局所     | 動的軽く速く  | 不要    | 〃        | 〃      |
| 18 | 〃      | 〃       | 〃     | 〃        | 〃      |
| 19 | 〃      | 〃       | 〃     | 複        | 〃      |
| 20 | 〃      | 〃       | 〃     | 〃        | 特に普通   |
| 21 | 〃      | 〃       | 特に要   | 論理的      | 高普通    |
| 22 | 〃      | 動的普通    | 不要    | 単        | 〃      |
| 23 | 〃      | 〃       | 要     | 〃        | 〃      |
| 24 | 〃      | 〃       | 〃     | 複        | 〃      |
| 25 | 〃      | 〃       | 〃     | 〃        | 特に     |



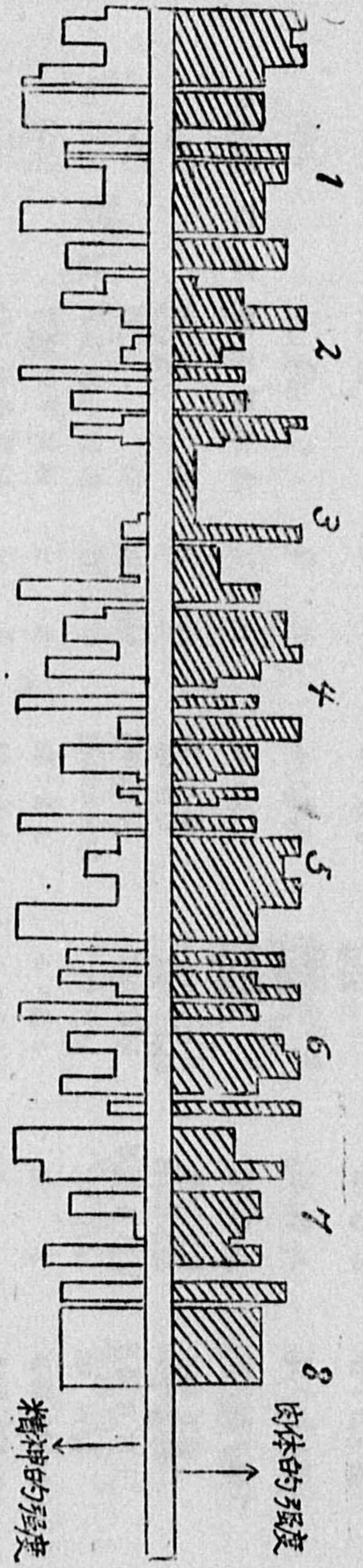
作業動作の分類 (形によるもの)

|                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 動作の構造上より              |                     |
| { 身構へ (静力學的) .....    | (1)                 |
| { 變化 (動力學的)           |                     |
| { 規定形..... { 恒常形..... | (2)                 |
| { 週期形.....            | (3)                 |
| { 不定形.....            | (4)                 |
| 動作の變化上より              |                     |
| 身構を主とするもの.....        | 筋力不要 (精神作業) ... (1) |
|                       | 筋力要 (静的作業) ... (2)  |
| 身構及び變化 .....          | 輕速作業   .....        |
|                       | 持續的作業   .....       |
| 變化を主とするもの.....        | 重筋作業   .....        |
|                       | (5)                 |

次に作業時間中の休憩であるが、これには、種々の場合があつて  
 一樣に決定することは不可能である。正しい動作に於ては、午前及  
 び午後各々一回づつ十分乃至十五分程度の休憩を可とする。作業に  
 よつては一時間毎に休憩を必要とする場合もあり、或は又十五分乃  
 至三十分毎に作業を交替するとか、休憩を入れるとかの必要のある  
 場合も存するのであるが、それらは作業の強度により環境によつて  
 種々考慮されなければならない。この意味に於て作業強度或は又作  
 業より受ける影響度を考慮することは極めて大切なことである。本  
 勞務管理全書に於ては、古澤、勝木兩氏によりその點について十分  
 に説明されて居る故、此處には重複を避け、唯作業動作上より考慮  
 される強度の表を示すに止める。

尙此處に一言して置きたいことは、疲勞検査によつて作業時間を  
 決定したり、休憩時間を考へたりすることである。作業意志及び動  
 作の上より考へて、延いては安全といふ點より考へて、苟くも疲勞

壓定作業 (8 時間) に於ける作業強度圖



検査に現はれるやうな疲勞を有たせて歸宅せしめるが如き作業は、根本的に正當でない。人間は作業が終れば小供の  
 やうに欣び勇んで馳せ歸るのが自然であらうと思ふ。解放された喜びでなく、作業によつて高張された心身に今日も  
 よくやつたといふほこりを持ちつつ已に立歸り、明日も亦、新しい元氣と意氣込みとを以つて仕事をするんだといふ  
 欣びを感じて居るのである。意氣消沈し、沈滞し切つて、もう來るのは嫌だといふやうな顔をして歸るやうでは駄  
 目である。良き炭坑に於て見られる、何十尺の地下より仕事歸りに急ぐ人達の歩み、又その小供の如き元氣は、想像  
 以上のものがある。それを見るならば、ああこれで良いのだとは感ずるが、未だ勞働力が残つてゐるなどとは夢にも  
 考へないのである。ましてや勞働時間決定のための疲勞検査をしようなどとは思ひもつかない事である。疲勞検査は



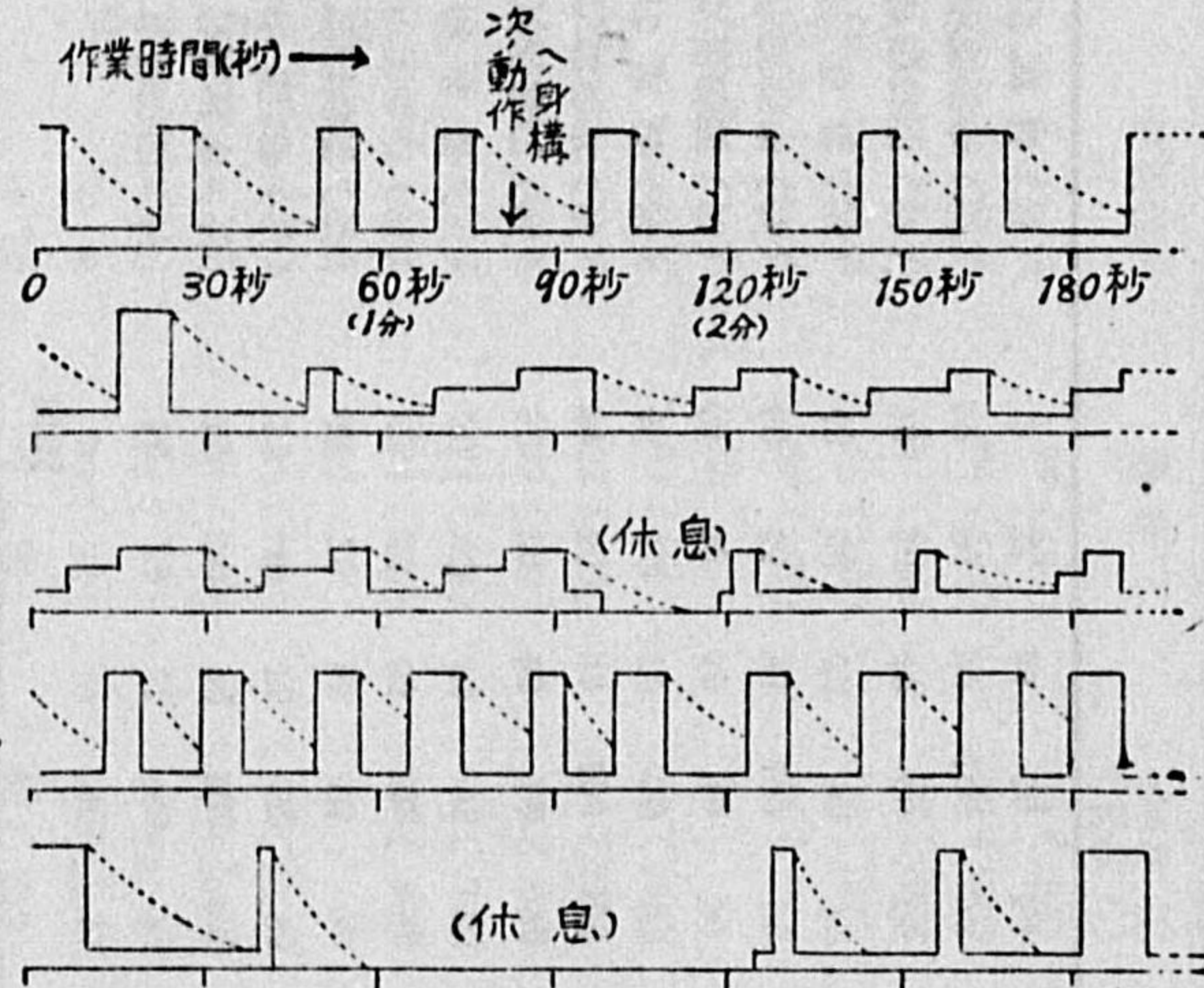
作業強度表

|            | 1               | 2           | 3                  | 4             | 5             |
|------------|-----------------|-------------|--------------------|---------------|---------------|
| 10 (11) 位置 | 室内              | 戶外          | 移動                 | 動揺            | 水中地下          |
| 20 (21) 姿勢 | 自由              | 坐           | 立                  | 立屈む           | 高所屈む(疲れる)     |
| 30 (31) 動作 | R. M. R. 1.0 以下 | 2.0 以下      | 4.0 以下             | 7.0 以下        | 7.0 以上        |
| (32)       | 神経緊張            | 時々有り        | やゝ有り               | 有             | 痛覺有り          |
| (33)       | 必要な智能           | 簡単な實際的      | 技術的實際的             | 論理的技術的        | 技術的論理的(疲れる)   |
| (34)       | 注意              | 時々要す        | やゝ要す               | 要す            | 必須(疲れる)       |
| (35)       | 特に感覺緊張          | 時々要す        | やゝ要す               | 要す            | 必須(疲れる)       |
| (36)       | 危険防止緊張          | 時々要す        | やゝ要す               | 要す            | 必須(疲れる)       |
| 40 (41) 時間 | 必然的な持續          | 30mm. 以内    | 1h 以内              | 2h 以内         | 2h 以内         |
| (42)       | 勤務              | 10h 以内      | 12h 以内             | 夜勤 h 以内       | 夜勤 2h 以上      |
| (43)       | 交代              | 9h. 以内 2 交替 | 10h. 2 交替 8h. 3 交替 | 12h 2 交替 複雑交替 | 16h 勤務 24h 交替 |
| 50 (51) 環境 | 温度湿度影響          | やゝ有り        | 作業の邪魔になる           | 疲勞す           | 長く堪え難し        |
| (52)       | 音響              | やゝ有り        | 作業の邪魔になる           | 疲勞す           | 長く堪え難し        |
| (53)       | 照明              | やゝ有り        | 作業の邪魔になる           | 疲勞す           | 長く堪え難し        |

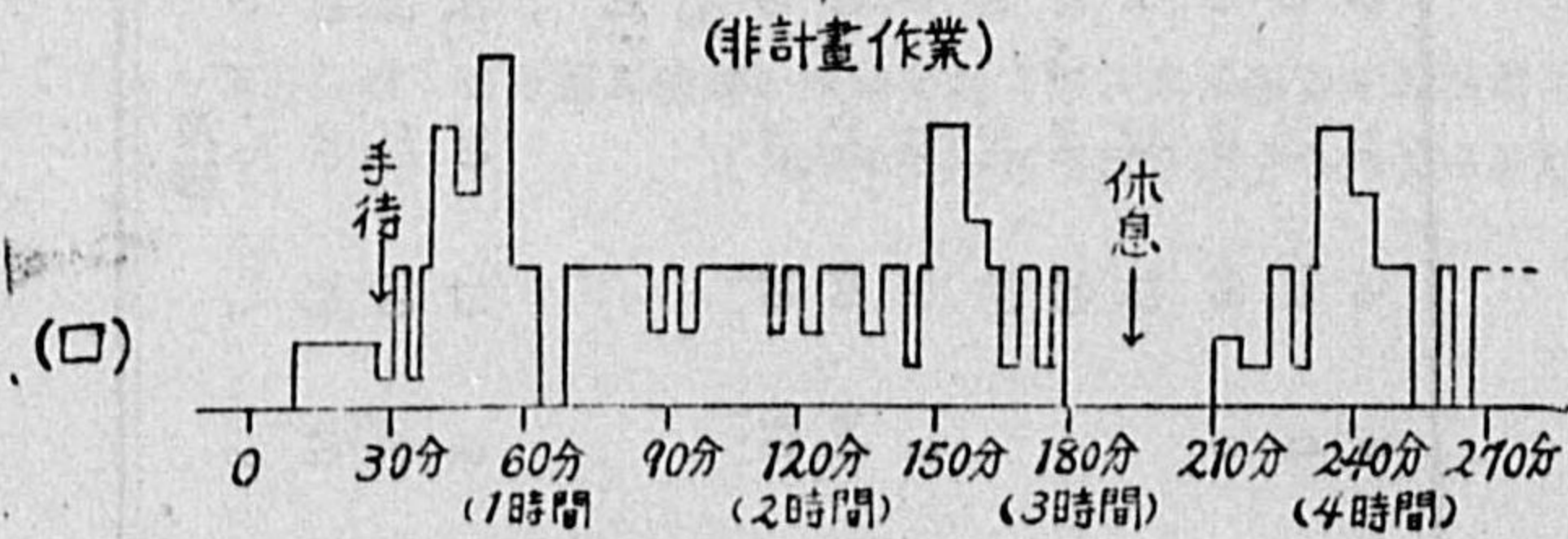
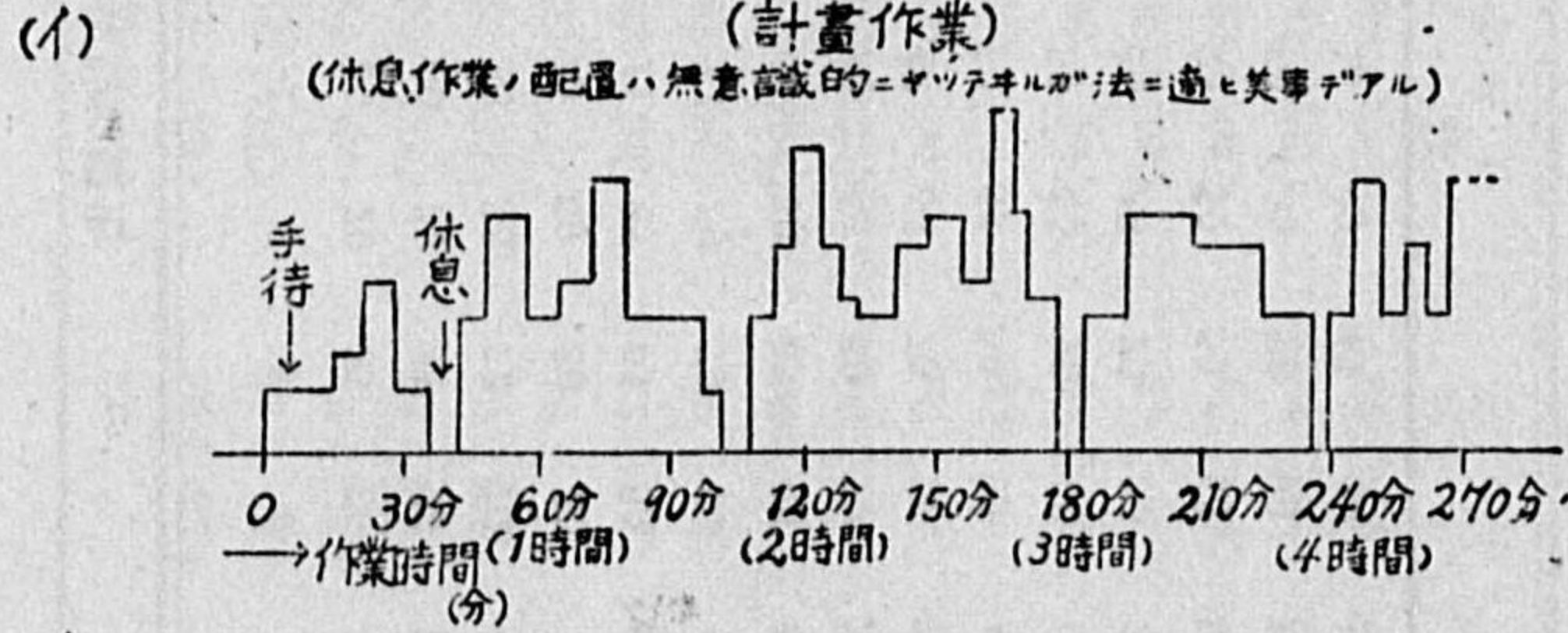
|          |   |         |       |         |          |       |        |
|----------|---|---------|-------|---------|----------|-------|--------|
| (54)     | 瓦斯塵烟  | な       | し     | やゝ有り    | 作業の邪魔になる | 疲勞す   | 長く堪え難し |
| (55)     | 壓力  | な       | し     | やゝ有り    | 作業の邪魔になる | 疲勞す   | 長く堪え難し |
| (56)     | 振動 加速度  | な       | し     | やゝ有り    | 作業の邪魔になる | 疲勞す   | 長く堪え難し |
| 60 (61)  | 組織下に在りて   | 割合に自由なり | 連絡を要す | 作業の分擔して | 責任有り     | 強制的なり |        |
| (作業名)    | (強)   |         | (度)   |         |          |       |        |
| (ア) レズ)  | 11.1 21.2 31.1 32.1 33.1 34.1 35.1 41.1 42.2 43.1 51.1 52.2 53.1 54.1 55.1 56.1 61.1      |         |       |         |          |       |        |
| (紡糸)     | 11.1 21.2 31.3 22.2 32.3 33.3 34.1 35.2 41.3 42.1 43.3 51.3 52.3 53.2 54.4 55.1 56.1 61.2 |         |       |         |          |       |        |
| (送信)     | 11.1 21.2 31.1 32.3 32.4 33.4 34.4 35.1 41.3 42.1 43.4 51.1 52.2 53.1 54.1 55.1 56.1 61.3 |         |       |         |          |       |        |
| (炭坑先山)   | 11.5 21.5 31.4 32.1 32.3 33.3 34.1 35.4 41.2 42.1 43.3 51.4 52.1 53.3 54.4 55.1 56.1 62.2 |         |       |         |          |       |        |
| (レンズ検査)  | 11.1 21.2 31.1 32.3 32.4 33.3 34.5 35.1 41.2 42.1 43.1 51.2 52.1 53.4 54.1 55.1 56.1 61.4 |         |       |         |          |       |        |
| (平爐クレーン) | 11.5 21.2 31.2 32.2 32.4 33.5 34.4 35.4 41.3 42.1 43.3 51.4 52.3 53.3 54.4 55.1 56.2 61.4 |         |       |         |          |       |        |
| (旋盤)     | 11.1 21.3 31.2 32.1 32.4 33.3 34.2 35.1 41.2 42.2 43.1 51.1 52.2 53.2 54.1 55.1 56.1 61.2 |         |       |         |          |       |        |
| (壓延)     | 11.1 21.3 31.5 32.3 32.4 33.4 34.3 35.4 41.2 42.1 43.3 51.4 52.4 53.3 54.4 55.2 56.2 61.3 |         |       |         |          |       |        |
| (受信機組立)  | 11.1 21.1 31.1 32.1 32.4 33.4 34.2 35.2 41.1 42.2 43.1 51.1 52.1 53.1 54.1 55.1 56.1 61.4 |         |       |         |          |       |        |
| (自動車運轉)  | 11.3 21.3 31.1 32.2 32.4 33.5 34.4 35.4 41.1 42.2 43.4 51.1 52.1 53.1 54.2 55.1 56.2 61.1 |         |       |         |          |       |        |
| (鑄物砂型)   | 11.1 21.4 31.3 32.3 32.4 33.2 34.1 35.1 41.1 42.2 43.1 51.2 52.1 53.1 54.4 55.1 56.1 61.2 |         |       |         |          |       |        |



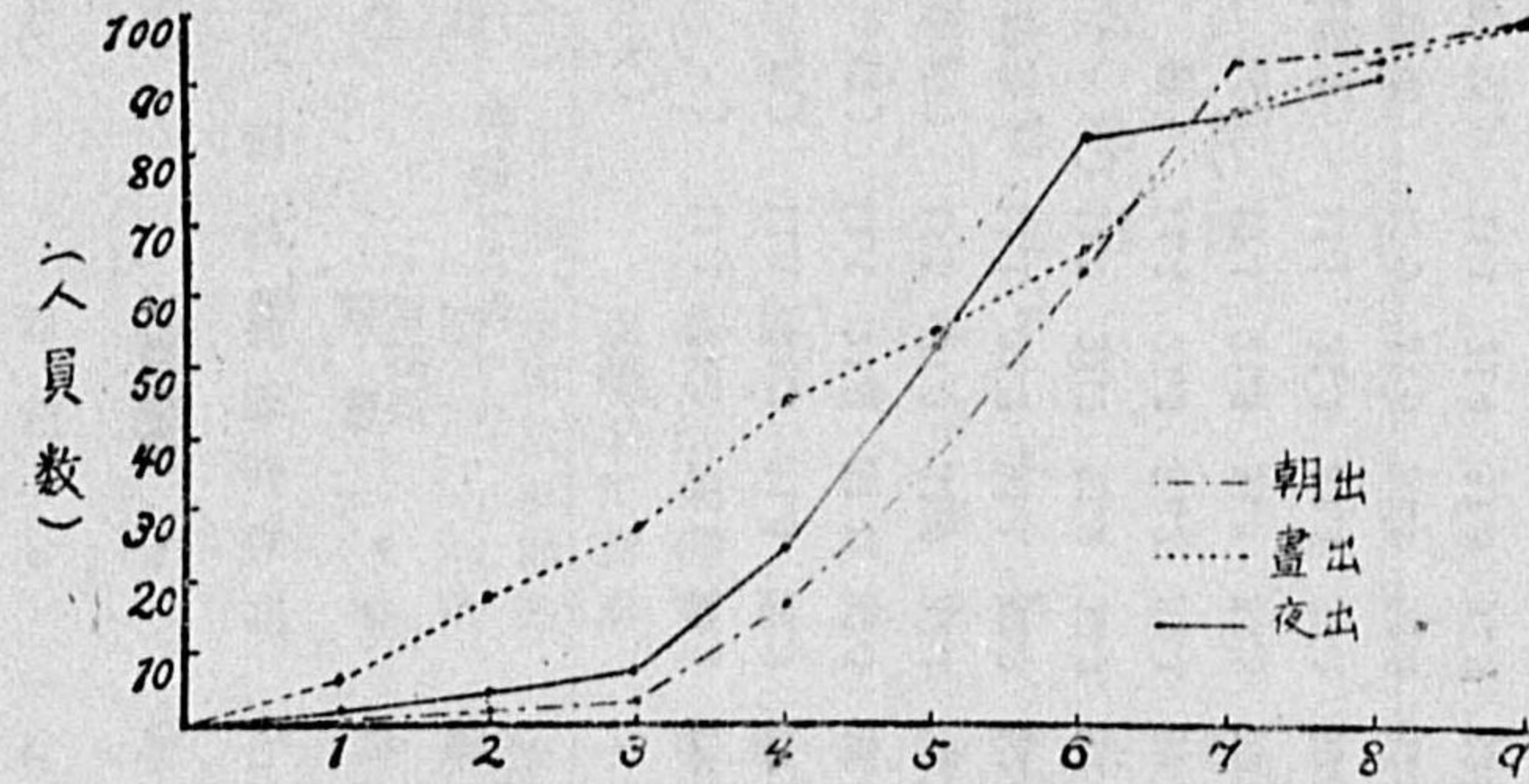
作業時間並に作業動作の分析（高さは動作の強度を示す）  
 （動作間の小休止がなければ作業強行は困難である。この  
 休止は30秒以上なければ休息の形をとらない。）



鑄物工（動作強度—動作範囲、速サ重サ—、時間的分布ヲ示ス）



特種重筋作業者の疲労感出現状態



既に4.5 時間後に現れ7 時間にして90%に達す。特に疲労  
 の場合に甚し、作業中このように疲労を覚へる作業は稀で  
 ある。

(二) 計畫作業

個人的缺陷を見出したり、又個人的の指導を行つたり或は又  
 災害防止のために行ふものであつて、作業意志を測定したり、  
 労働時間を決定したりするために使はれるべき性質のもので  
 はないのである、と私は信じて居る。

以上の如く、正しい意志を有ち、正しい動作を有して居る  
 ものが如何に働いたならばよいか、即ち労働時間は何時間で  
 休憩はどうするか。又、どのくらい仕事をするか、この問題  
 については相当考へなければならぬのである。即ち作戦を  
 樹てなければならぬのである。一人で働く場合にも、本當  
 の熟練者は計畫をたててゐる。別に考へ込まなくとも自然に  
 解つてゐて、仕事の段取りも巧く作つて居る。しかも實に驚  
 くほど上手に出来てゐるのである。仕事の振り分けから、休



各種作業に於ける作業態度の逐時的變化

| 時刻 | 成人       |          | 少年工      |          | 成人       |          | 少年工      |          | 成人       |          | 少年工      |          | 成人       |          | 少年工      |          | 成人       |          | 少年工      |          |    |    |
|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|----|
|    | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) | 實働時間 (%) | 作業能率 (%) |    |    |
| 7  | 30       | 70       | 70       | 30       | 10       | 90       | 50       | 50       | 30       | 70       | 30       | 70       | 30       | 70       | 30       | 70       | 30       | 70       | 30       | 70       | 30 | 70 |
| 8  | 70       | 70       | 85       | 90       | 83       | 100      | 60       | 60       | 60       | 80       | 20       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 | 80 |
| 9  | 70       | 70       | 90       | 100      | 100      | 100      | 60       | 60       | 60       | 80       | 20       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 | 80 |
| 10 | 49       | 76       | 90       | 90       | 83       | 90       | 6        | 30       | 30       | 56       | 70       | 75       | 85       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 11 | 40       | 70       | 85       | 95       | 90       | 90       | 6        | 30       | 30       | 56       | 70       | 75       | 85       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 12 | 21       | 49       | 76       | 90       | 83       | 90       | 6        | 30       | 30       | 56       | 70       | 75       | 85       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 1  | 40       | 70       | 85       | 95       | 90       | 90       | 20       | 70       | 70       | 80       | 20       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 2  | 75       | 83       | 88       | 100      | 90       | 90       | 15       | 52       | 52       | 70       | 75       | 85       | 85       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 3  | 30       | 65       | 75       | 95       | 81       | 81       | 15       | 52       | 52       | 70       | 75       | 85       | 85       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 4  | 60       | 70       | 85       | 90       | 90       | 90       | 10       | 60       | 60       | 80       | 20       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 5  | 80       | 80       | 90       | 100      | 100      | 100      | 8        | 42       | 42       | 64       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 6  | 48       | 56       | 75       | 90       | 90       | 90       | 8        | 42       | 42       | 64       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 7  | 60       | 80       | 80       | 90       | 90       | 90       | 10       | 60       | 60       | 80       | 20       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 8  | 80       | 85       | 90       | 100      | 100      | 100      | 8.5      | 56       | 56       | 68       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 9  | 48       | 68       | 72       | 90       | 72       | 72       | 9        | 56       | 56       | 68       | 70       | 70       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 10 | 10       | 30       | 40       | 60       | 60       | 60       | 0        | 20       | 20       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50       | 50 |    |
| 11 | 50       | 90       | 100      | 100      | 90       | 90       | 0        | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80       | 80 |    |
| 12 | 5        | 27       | 36       | 60       | 54       | 54       | 0        | 16       | 16       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40       | 40 |    |

成人・少年及婦人1Hの作業能率(熟練1Hの平均を100とす)並に能率の時刻的變化(%)

| 經過時間 | 熟練工       | 少年工(養成工)  | 少年工(一般)  | 女子        |
|------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 0    | 99 (100)  | 94 (100)  | 89 (100) | 90 (100)  |
| 2    | 104 (105) | 99 (100)  | 91 (102) | 94 (104)  |
| 4    | 101 (102) | 99 (100)  | 89 (102) | 90 (100)  |
| 6    | 100 (101) | 94 (100)  | 89 (100) | 89 (90)   |
| 8    | 97 (98)   | 91 (97)   | 84 (94)  | 81 (90)   |
| 10   | 100       | 96        | 87       | 89        |
| 平    | 99 (100)  | 100 (100) | 89 (100) | 96 (100)  |
| 2    | 102 (103) | 101 (101) | 96 (108) | 100 (104) |
| 4    | 99 (100)  | 94 (94)   | 93 (104) | 94 (98)   |
| 6    | 99 (100)  | 92 (92)   | 89 (100) | 86 (90)   |
| 8    | 99 (100)  | 89 (89)   | 87 (98)  | 75 (78)   |
| 10   | 100       | 96        | 92       | 90        |
| 平    | 103 (100) | 94 (100)  | 87 (100) | 90 (100)  |
| 0    | 103 (100) | 99 (100)  | 90 (103) | 94 (104)  |
| 2    | 100 (97)  | 95 (100)  | 84 (97)  | 90 (100)  |
| 4    | 99 (96)   | 94 (100)  | 82 (94)  | 88 (98)   |
| 6    | 99 (96)   | 89 (95)   | 78 (90)  | 75 (83)   |
| 8    | 100       | 95        | 85       | 87        |
| 10   | 100       |           |          |           |
| 平    |           |           |          |           |

(養成少年工の作業の能率に注意を要す)  
 (8時間以後及殘業時に於ける能率低下と實働時間の少い事は注目すべし)



種別作業に於ける休止・腰伸・作業量及能率の逐時的變化

| 時刻              | F. Ta 女         |               |              |               | T. Tu 女         |               |              |               | K. Tu 男         |               |              |               | S. Ta 男         |               |              |               |
|-----------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|
|                 | 時間<br>止(分)<br>a | 腰回<br>伸數<br>b | 作業<br>量<br>c | 分能<br>り率<br>d | 時間<br>止(分)<br>a | 腰回<br>伸數<br>b | 作業<br>量<br>c | 分能<br>り率<br>d | 時間<br>止(分)<br>a | 腰回<br>伸數<br>b | 作業<br>量<br>c | 分能<br>り率<br>d | 時間<br>止(分)<br>a | 腰回<br>伸數<br>b | 作業<br>量<br>c | 分能<br>り率<br>d |
| 6~7<br>(準備休憩)   | 36              | 1             | 215%<br>65.5 | 9.0%<br>110   | 33              | 0             | 230%<br>59   | 8.5%<br>89    | 33              | 0             | 249%<br>54   | 9.2%<br>83    | 33              | 0             | 226%<br>52.5 | 8.4%<br>81.5  |
| 7~8             | 0               | 0             | 570<br>174   | 9.5<br>116    | 0               | 5             | 593<br>152   | 9.9<br>103    | 0               | 0             | 688<br>149   | 11.5<br>104   | 0               | 0             | 123<br>23.5  | 10.4<br>101   |
| 8~9<br>(休憩)     | 13              | 0             | 395<br>120   | 8.4<br>102    | 14              | 9             | 440<br>113   | 9.6<br>100    | 10              | 0             | 531<br>116   | 10.6<br>95.5  | 11              | 0             | 507<br>118   | 10.3<br>102   |
| 9~10            | 5               | 0             | 487<br>148   | 8.9<br>108    | 9               | 5             | 500<br>123   | 9.8<br>102    | 6               | 0             | 604<br>131   | 11.2<br>101   | 6               | 0             | 583<br>136   | 10.8<br>105   |
| 10~11<br>(食事休憩) | 44              | 0             | 121<br>36.9  | 7.6<br>93     | 46              | 3             | 130<br>334   | 9.3<br>97     | 35              | 1             | 153<br>33.2  | 10.2<br>92    | 45              | 0             | 128<br>127.6 | 8.5<br>82.5   |
| 11~12<br>(休憩)   | 16              | 15            | 346<br>100.6 | 7.7<br>94     | 16              | 9             | 471<br>121   | 10.7<br>111   | 16              | 8             | 507<br>110   | 11.5<br>102   | 15              | 0             | 491<br>114   | 10.9<br>106   |
| 12~1<br>(休憩)    | 21              | 16            | 239<br>83    | 7.4<br>90     | 18              | 8             | 444<br>114   | 10.6<br>110   | 18              | 10            | 510<br>110   | 12.1<br>109   | 22              | 0             | 451<br>104   | 11.9<br>116   |
| 1~2<br>(食事休憩)   | 23              | 15            | 279<br>85    | 7.5<br>91.5   | 20              | 10            | 403<br>103   | 9.6<br>100    | 21              | 0             | 464<br>101   | 11.8<br>106   | 20              | 0             | 446<br>104   | 11.2<br>109   |
| 2~3             | 31              | 7             | 214<br>86    | 9.8<br>120    | 31              | 2             | 331<br>85    | 11.5<br>120   | 31              | 3             | 339<br>73.5  | 11.9<br>103   | 30              | 0             | 330<br>76.9  | 11.0<br>107   |
| 3~4             | 10              | 15            | 230<br>85    | 5.6<br>68     | 7               | 4             | 376<br>96.5  | 7.1<br>74     | 6               | 3             | 551<br>120   | 10.2<br>92    | 5               | 0             | 527<br>122   | 9.6<br>93     |

|     |      |     |                 |               |      |                  |                |           |                  |     |             |                  |     |   |                  |            |
|-----|------|-----|-----------------|---------------|------|------------------|----------------|-----------|------------------|-----|-------------|------------------|-----|---|------------------|------------|
| 4~5 | 8    | 11  | 353<br>100.7    | 8.4<br>100.2  | 17   | 3                | 373<br>96      | 8.7<br>91 | 18               | 0   | 453<br>98.1 | 11.8<br>106      | 17  | 4 | 437<br>102       | 10.2<br>99 |
| 總計  | 217  | 80  | 3,619<br>(89.8) | 211<br>(82.8) | 55   | 4,221<br>(105.3) | 194<br>(122.0) | 25        | 5,049<br>(122.0) | 204 | 0           | 4,794<br>(113.2) |     | 0 | 4,794<br>(113.2) |            |
| 平均  | 19.6 | 7.3 | 322             | 8.2           | 19.2 | 5                | 390            | 9.6       | 17.6             | 23  | 461.3       | 11.1             | 185 | 0 | 432              | 103        |
| 比較  |      |     | 72              | 74            |      |                  | 85             |           |                  |     | 100         | 100              |     |   | 94               | 93         |

憩或は又作業變更の位置までよく考へて居るのである。

ましてや大勢のものが協働して働く近代工場に於ては、計畫がなければ何事も進捗しないのである。一人の作業者の作業曲線にも、計畫作業曲線が考へられるのであるから、工場全体の作業曲線については十分に練らなければ大變な無駄をすることになる。又安全といふ點からも慎重に考へなければならぬと思ふ。工場に於ては作業曲線の示す如く、九時より十一時は最も能率の上る時である。工場全體としても、材料が集まり、全部の氣も揃ひ、動力や機械の調子も出てフル運轉の始まるのは九時頃からである。而して漸次高張に達し、以後は生産品の運搬、材料の不足、手入れ、後始末等のため漸次生産が減退して来る。この大きな波を如何に利用するか、波の形や性質は使用電力曲線等で工場の當事者には判つて居る筈である。この波に餘りに乗り過ぎるのは安全から見て危険である。災害發生曲線もこの波に伴つて居ることからそれを推測するに難くない。又この波を無視することは非能率極まる話である。如何にどの程度に利用すべきか、そのためには唯單に物的な波にのみ依存するのではなく、人や人の配置、或は又指導の上



からも十分に考へなければならぬのである。個々の性格と能率、個々の機械の能力、人の集團としての能力、人と機械との総合能力、工場全體の能力等を考へて緻密な計畫を立てなければならぬ。而して各個人はその計畫に指導されて、各自、自分の作業計畫を立て、一定の計畫方針の下に作業に従事すべきである。之を計畫作業と言ふ。

而してこの計畫作業がなく、唯漠然と仕事に従事する場合には、假令どれ程優れた能力を有つてゐても、全體の力の前には殆んど無力であつて、その安全性は保證され得ないのである。かかる場合の全體と個人との關係は恰も自然と個人との關係の如く、個人は唯々全體の力の前に服従するの他はないのである。而してこの關係を身を以て體得するにあらざれば、眞の安全人或は又眞の熟練工とは言はれない。故にただ漸く作業を習得した、四、五年の経験者は表面上の安全人であつて眞の意味の安全人ではないのである。

以上に依つて、私は正しい動作、従つて安全動作とは如何なる性質のものであり、その考へ方はどうかといふ點について、その要點のみを擧げた。之を具體的に一々の場合、一々の動作について説明することの責務を感じるのであるが、寫眞その他の都合上他日の機會に譲つたことを御詫びする次第である。

## 第六章 安全教育

工場安全を眞の意味で徹底させるためには、既に何回も繰返した如く、一時的の又外から呼びかけるところの防止策ではいけない。工場自らが、自發的に、作業をして正しい作業化せしめるやうつとめなければならぬのである。而してそれが唯一最善の方法であると言はなければならぬ。而してその方法は警告にあらず、取締りにあらず眞の意味の教育でなければならぬ。正しい作業を教へること、これ以外に道はないと思ふ。

安全教育には先づ人と工場の安全性を知らなければならぬ。次にそれに基いて各種の訓練を施すことが必要である。而してそれでも尙萬一災害を起したものに就ては、その原因を確かめて今後の方策に資し、併せて災害者の再教育を行ふのである。



## 第一節 作業能力の検定

## (イ) 生活

個人の作業能力は生活に依存することは既に述べた通りである。正しい生活をして居らなければ、正しい作業は望めない。故に工場の従業員が正しい生活をして居るかどうか之を確かめることが必要である。確かめると言つても單なる聞き取りでなく、實際について又その交友について、作業を調べると同様の熱意を以つて調査する必要がある。調査に際して考慮せねばならない點は多々あるが、第一に、その生活が計畫生活になつて居るかどうかである。而して若しその生活が正しくないならば、寄宿舎に收容するとか何かの方法を以て是正しなければならぬ。之を放任してその上に教育を施すことは無意味である。又寄宿舎に於ける生活も、唯單なる形式に捉はれることなく、生活の四大要素たる睡眠、食事、勤務及び自己に歸るといふ各事項が、正しく保持されて居るかどうかを確かめなければならぬ。

## (ロ) 體力並に精神力

作業能力としての體力並に精神力を検定するのであるが、その方法は既に本全書の他の著者によつて詳述されて居る故重複を避ける(狩野氏の著者を参照されし)。ただ此處に注意すべきは體力並に精神力の検査は遣りつ放しではいけないといふ事である。あくまで之を利用して行かなければならない。多くの場合、この方法は唯單なる一時の検定に用ひられ、以後は顧みられることがなかつたのである。これでは折角の科學的検査も意味をなさぬ。事ある毎に、良きにつけ悪きにつけ之を引出して教育上に利用すべきである。殊に災害の原因を調査する場合には唯一の科學的手懸りとなるのである。

## (ハ) 習得能力

之は作業に關する經驗を探ることである。之には二つの意味がある。その一はどのくらい知つて居るか又どんな事を經驗したかである。その二はその經驗が正しく教育されたものであるかどうかである。多くの場合、その一の方のみ注意されて居るやうであるが、實はその二の方が安全といふ上から極めて大切なことである。正しくない動作の習癖を有する、或は又物事に對して、中途半端な判断を有つてゐることくらい危険なものはない。而してこれは本人が危険であるのみならず累を他に及ぼすことが多いのである。



## (二) 作業意志

正しい作業には何を措いても作業意志を重んじなければならぬ所以は前章に於て詳述した通りである。

作業能力の比較、安全性の比較をする場合何よりも大切なものは作業意志である。やらうとする正しい意志がなければ、又それが正しく展開されて居らなければ、何をさせても一人前にやれないし又危険でもある。これはその動作を一寸見てもその普通と異なる點を直ちに推察することが出来る。又個々の動作に何處といふ缺點はなくとも、どこかに力がない、積極性がないのである。かかる作業は、工場作業に於て又礦炭山作業に於て最も危険であり、又最も能率が擧らない。最近に於ける各種の特殊勞務者に見られる能率問題、安全問題の根本要件はこの作業意志の問題に歸著すると言ふことが出来る。私は信じて居る。

## 第二節 工場の安全性檢定

## (イ) 作業の安全性

之は、作業が正しい作業になつて居るかどうかを観るのであるが、之を一々規定してみても、いやそれには此様な

理由がある、實は此様だとか、種々理屈はつくものである。しかし無理な作業は當事者が最もよく知つてゐるので、事新しく指摘する迄もないことである。但し何故無理であるかといふことを科學的に數字を以て説明することは非常に困難であつて、入念の實驗をやらなければ實證出来ない。又細い微妙な點は到底判らぬものである。併し數字のみを期待し、これがなければといふ人もあるが、それ程まで形の科學に捉はれ煩はされることは澤山である。數字を並べてみようとする前に何故改めてみないか、そして實驗をやつてみないか、實に不思議である。實驗をすれば數字もひとりで生れて来る。他人に出して貰つた數字は一體なんの意味を有つのか、これらの點については互に深い反省を要するやうである。

作業の安全性には前章の正しい働き方に述べた項目がそのまま當嵌まる。そしてその作業が計畫作業になつてゐるかどうかを各方面より検討することが肝要である。

## (ロ) 用具・機械の安全性

危険なる機械の安全装置の檢査、工具の手入れやワイヤーの檢査、ロールの檢査、ハンドルの檢査等の安全檢査を行ひ、その安全性を檢定すると共に、作業動作についてその安全心得が十分守られて居るかどうか、安全作業法に缺陷がないかどうかを調べるのが通常の遣り方であるが、此處ではそれも大切であるが、更に一步を進めて、少しでも



無理のある作業そのものを改善しよう、機械も工具も根本的に正しいものに改めて行かうとする努力及びその現はれを問題にしようとするのである。

故に定められた安全作業法や安全心得に十分なる安全装置が出来て居るかどうかを検定するだけでなく、その根本的改善の跡があるかどうか又その計畫が進みつつあるかどうかを探り上げて吟味するのである。若しそれをやらなければ即ち現在の作業を肯定してその安全のみを以つて満足し、それを工員に守らせて足れりとするやうでは、常に災害に追はれがちであつて、之を克服することは思ひもよらないのである。その點を打破しなければ安全教育が生きて來ない。それ故にこの問題を探り挙げようといふのである。

#### (ハ) 組織とその活動

これは前章で詳述した通り、全工場の總意を以て一致協力安全に當つて居るかどうか、又その組織の中核はどこに在り、如何なる活動をして居るか、又その組織の仕事はどうか、常に絶え間なく活動して居るかどうか、日々の定つた仕事を持つて居るかどうか、而してそれは作業の指導と一致して居るかどうかを検定し、組織中の人の能力、缺員の有無等をも調査するのである。

### 第三節 安全作業訓練

#### (イ) 作業動作の訓練

正しい作業動作を習得するための訓練を行ひ、併せて安全なる所以と臨機應變の處置を體驗せしめ、常に備へある心組を以て事に臨み、一日も早く正しい作業を會得せしめるのである。即ちこの項目の要點は安全のための特殊訓練でなく、一般作業の訓練より眞の安全性を體得せしめねばならぬといふことである。即ち正しい作業動作の訓練を通して生産性と安全性とを、同時に又それを基本的に教へようとするのである。故に訓練は正しい作業（設備も正しいことを必要とす）に依つて教へられねばならないのである。

#### (ロ) 特殊動作の訓練

工場作業の中では、一から十まで正しい作業であることは望めないのである。改善の途中に於ては現在の状態を以て厭はなければならぬ場合が存するのである。その不備を出来るだけ改善し一日も早く無くすることが技術者の職域奉公の道であり、又責務でもある。然しそれ迄の間は少しの危険を冒してもその作業を遂行せねばならない。極言すれば工場全體のために犠牲的精神を發揮して働いて貰はなければならぬのである。この場合には、特殊動作の訓



練といふことが必要になつて来る。訓練の方法も常と變り、又その訓練を受ける人もあらゆる方面に於て選ばれた安  
 全人でなければならぬ。この場合には所謂普通の正しい作業ではないのであるから、作業意志も特別であり、動作も  
 特別であり、時間も亦休養も特別である。

#### (ハ) 安全施設の訓練

安全施設は何のために、如何にして設けられたか、又その正しい使ひ方は何であるか、これを後から来る人に送へ  
 て置く必要のあることは既に述べた通りである。教育に於ては更に一步を進め積極的にその使用法を訓練せしめるこ  
 とが大切である。而してその場合發見された不備の點は直ちに改善して行くことも忘れてはならない事項である。

#### (ニ) 實際作業の訓練

教育は教室だけに止まるべきでないことは今更述べる迄もないことであるが、往々にして訓練が現場に及ばないこ  
 とが少くない。作業教育即安全教育は生きた實際教育である、現場での教育である。今若しそれが教室教育に墮すや  
 うなことがあればその教育價值は零となつたのである。指導者は常に實際作業場に臨み、實際作業を指導し、若し萬  
 一危険の生ずる時あらば身を以て又責任を感じて之を救ふの舉に出づべきである。

### 第四節 集團訓練

#### (イ) 集團生活訓練

今迄述べたことは一般的であり、個人にも集團にも相通することであつた。此處で特に集團的訓練の必要を擧げる  
 所以は、從來この方面が最も遅れて居たからである。

個人心理と集團心理とは自ら異なるものがある。殊に集團が全體として意志を有ち活動する場合には、個人の場合  
 とその趣を異にする。メーデは「集團は劣れるものには刺戟となり、優れたものには障害となり全體として均衡化せ  
 んとする傾向を有す、特に作業のテンポや動作に於て然りである。而して作業時間に比例してその影響は増大する」  
 と述べて居るが、災害の場合には劣れるものが益々危険となり、時間に比例して増すのである。故に個人作業に於て  
 は安全なる者も集團作業に於ては不安定性を示す場合が少くない。之と同様に家庭に於てよい生活を送つて來た者が  
 寄宿舎に入り、又他人に混つて不安を感じ、生活のリズムを亂す場合が多いのである。生活の集團訓練及び集團生活  
 の訓練の必要なる所以は此處に在る。唯單に便宜上或は又經濟上有利であるからとか、或は又教育や、取締に便であ  
 るとか、又は、集團生活は個人生活によつては得られない訓練の效果があるから、不便を忍んでもそれを遂行する必



要があるとかと言ふでもない。工場が全體としての意志を有ち活動する爲の且つ又生産力昂揚の前提としての集團生活に外ならない。ただ訓練のためのみに集團生活の見本を行ふのではないのである。本格的に積極的に集團生活の訓練を行はざるを得ないのである。この點を誤解してはいけないと思ふ。集團生活には、集團の意志があり、且つ又活動の中心があることは言ふ迄もない。その點を意識して訓練を生かすことが肝要である。近時防空訓練が行はれるやうになり、集團の訓練が漸く本式になつて來たやうに思ふ。形式に頼つて、又それを借りて本心を知り、本心を知つて形式の有難味を識るといふところ迄進みたいものである。

#### (四) 集團作業訓練

前述の如く、個人作業と集團作業とは自ら異なるものがある。詳しく述べれば際限のないことであるが、そのつもりで日々の作業を見直し反省してみることが大切である。原則的な又理論的なもののみを何程識つてゐても、體驗のないところには時かぬ種が生えぬものである。而してその經驗のない人には眞の理解が出来ないものである。殊に災害發生の場合に於ける集團としての個々人の力が如何に弱いものであるか、危いと知りつつ又看守りつつも一人の仲間を怪我させる場合が如何に多いか、又その時各人が如何に自己の無力を知るか、又組織化され適時適應して行くことの如何に大切であるかを反省せぬ者はないと思ふ。而して誰もが組織中のものとして思ふ存分働いてみたいと思は

ぬ者はないであらうと思ふ。それには集團作業の訓練が必要である。個人作業の訓練以上に集團作業の訓練を必要とする。而して各人がその中で如何に活動すべきかを知り、常にそれを心掛け、待機して十分の力を發揮することにつとめなければならぬ。

#### (ハ) 集團安全作業訓練

これは集團作業訓練と根本に於て一致する。但し此處では、正しい作業にまで到らない作業を正しい集團作業として行ふ場合、或は又安全装置や安全心得(特に作業合圖)を集團的に行使する場合を云ふのである。この場合には各人が十分に自己の責任を知らなければならぬ。死を以て責任を果すとは個人作業の場合に當嵌ることで集團作業の場合には死を以ても果し得ないものがある。即ち一寸でも間違つてはいけないのである。故に日頃の訓練に重きを置き、念には念を入れ、如何なる場合にも決して間違はないだけの處置を講じて置く。而してそれを完全に果すための訓練を怠らぬことが根本的に必要である。

#### (ニ) 非常時集團訓練

これは前二者と同様であるが、ただ此處では、非常時を豫想し、豫め訓練を行つて置けば、事ある場合うまく處置



が出来たことを指摘したのである。火事の前に若し一寸でも消火用具を使ふことに思ひつき、その時はかくするのだといふほんの僅かな心構へでも出来てゐたとすれば、いざ火事のあつた時、その人の動作は他の心の準備のなかつた人に較べて大いに相異なるであらう。自動車で正面衝突をしかけた時、反射的にストップしてバックの處置をとつたため難を免れる事は屢々あるが、此様な突嗟の場合の行爲や動作は日頃の習練、心構へに在ることは疑ひを入れな

い。心の準備のない人に出來る事ではないのである。若し萬一出来てもそれは適切を缺き適時を失するものである。この意味に於て心得ある人の指導を必要とし、受ける方もそのつもりで眞剣に一生に一度役に立てるつもりで努力すべきである。

### 第五節 災害者の再教育

#### (イ) 再教育と災害原因の究明

人の缺點は教育をしてみなければ解らないものであることは既に述べた通りであるが、怪我をしてみてはじめてその人の短所や長所を知ることもしらなくない。故に災害が発生した場合には、その原因を確かめるために種々の研究をすると共に、本人を再検査し、更に再教育を施すことが必要である。かくすることによつて災害の眞因を確かめる

ことが出来る場合が少くない。又災害によつてその人を知り従来の教育の誤れること、即ち少くともその人には適切でなかつたことを知り、再教育の必要とその方針や方法を教へられる場合も少くないのである。

實際上に於てはかかる二度とない好機會を逸し災害の原因も不明のままであり、その本人もそのままであつて相變らず同様の災害を自分で起したり、又他人に起さしたりして居るのである。この一人の災害者をでも十分に研究すれば、災害發生の眞因を掴み得るのに、徒らに統計的數字にのみ頼る人の多いことは解せぬことである。

#### (ロ) 工場安全性の再検討

これも前項と同じく、災害によつて反省を新たにし、工場の安全性に缺くところがあるかどうかを責任を以て再検討するのである。多くの場合災害ある毎に何かしら、改善すべき事項を見出すものである。但しこの場合、その時の思ひつきによつて輕々に改めてばかり居ては、元の大方針をも失つて終ふ恐れがあるから、その根本方針と各々の場合とをよく検討し、更に必要な實驗を行つてみて改めるものは改めることにしなければならぬ。

#### (ハ) 不適應者の處置

何故に不適應者であるか、それが判明すれば、その處置は容易であり、又本人のためにも最も有利な處置がとれる



のである。故に先づそれを汎ゆる方面から十分に確かめなければならぬ。必要ならば實驗も行はなければならぬし、又専門家の各種の判断も仰がなければならぬ。

既に屢々述べた如く、不適應なる原因は工場側に在ることもあり本人に在ることもあり、兩方に在ることもある。或は又災害によつて新たに不適應者となる場合も存するのである故に、各々の場合について十分に検討し、作業に不適應なりと決定すれば一日も早く職場を變へることが必要である。而してそのためには必要な補助具を要することもあり、又助手を必要とすることもある。或は又安全指導者を要する場合もあると思ふ。要するに人を見、場合を考へてその人を生かす最善の方法をとるべきである。

## 第七章 工場安全の方策

工場災害發生の状況、災害の原因、それに對する從來の防止對策、と順を追つて考慮した結果、工場安全の根本策は正しい作業をなすに在る、而してこの正しい作業を工場内に徹底するためには、安全教育を措いて他にないことを指摘したのである。

さて以上の如く考へて來て、聖戰完遂下の現状を思ふ時、吾々の胸の中には、一刻も猶豫ならぬ切實なる願望の湧き上るのを禁じ得ないのである。

敵國に負けぬ立派な生産品を、必要にして十分なる程作つて行かなければならぬ。然し乍らそのためには、吾々産業人の個人的犠牲は厭はない、全力を一時に出し切つても惜しまない、といふのみで安んじてゐては、長期戦に耐えてゆくことは出來ない。長期戦に必要なものは生産力の昂揚と共にその保持増強でなければならぬ。

物が足りない人が足りない。これは當然のことであるのに、足りないままに同一物を徒らに移動してのみ居つては勞力や物の不經濟の上なしである。何とか根本方針をたて全國民一致して進まなければ追いつかないのである。生産擴充にも、災害防止にも、正しい作業確立の必要を叫び、更に作業教育、安全教育の徹底を説くのも皆この方



途に出づるものである。従らに安易に就き用心に過ぐるのではない。之が最も正しく、最も生産的であり、最も産業報國の道に適ふことを知るからである。

例へば作業時間を延長すれば、生産の増すことは目に見えて居る。又どの工場に於ても又誰れにでも出来ることである。之を目前の利と言ふ。然し乍ら之を長期に亙つて行ふ時は、人は疲れ、作業能率は低下し、生産の品質を損じ、次第に生産全體を悪化する。これは今更實證せずとも過去の経験によつて明らかである。そして之をやつて終へば後に打つ手は無くなるのである。即ち之は決して最善の方法ではない。

今若し、作業の仕方を變へ内容を充實し、作業時間中にフルに働ける正しい作業に置換へれば、人は生氣に溢れ、生産能率は増し、前途に希望の光を認めるの状態を現出せしめ得ることを信じて疑はない。又後から来る少年工はこの方法によつて育てられ、工場の氣風も一新され前途益々有望となる。然るに長時間作業に於ては少年工は疲れ、自然に所謂時間をうまく使ふことを習ひ、何時迄たつても作業の質が向上しないのである。體力的に精神的に、益々劣れる少年を就勞せしめなければならぬ。この時この状態を續けるならば益々勞力の不足を生ずるは自明である。少年工の作業に對し質的改善を計ることの必要なる根本理由は此處に存する。しかも之を阻害する最も有力なるものは徒らなる長時間勞働である。とすればなんとか考へ直さざるを得ないのではないかと思ふ。

以上の見地より大局的にみて不可であるとするならば、思ひ切つて出直すことが望ましいのである。而してそれは

早ければ早い程効果があるが、遅ればさうと知りつつ收拾出来ぬ事態に陥るの外はなくなる。

私はここに一日も早く正しい作業に歸れと叫ぶものである。正しい作業こそは最も生産的であり、且つ又最も安全なる作業法である。更に良いことはこの方法によつて少年工を正しく本質的に教育することが出来るのである。又少年工を災害から守り得る唯一の根本方策である。

然らば何故この正しい作業をやれないか、それには理由がある。一言にして言へば、工場の技術者にその意氣込みがないからである。技術者に言はずれば重役が承知しないと言ふ。又重役を納得せしめるための科學的資料と數字とが必要であると言ふ。生産原料の配給が無計畫で作業の工程計畫が立てられない。従つて人と物とを長時間工場に置いた儘その間にやりくりをせざる得ないと言ふのである。尙他にも理由はあるであらうが、これくらいのことを克服し得ないならば、この生死の大戦下に於て技術や勞務の指導者は何をしてゐるかと言ひたい程である。

併し乍ら翻つて考へれば、人の心理として無理からぬ事であり、或は又筆者の考へ及ばぬ點もあるかと反省するのである。言ひ過ぎて居るかもしれないと思つて居る。けれども工場を切廻す原動力は社長でも重役でもない。中堅技術者と中堅勞務管理者である。故にこれらの方々の奮起を祈つて已まない次第である。



### 第一節 國家の方針

現段階に於ては國家としての大方針を定め、かくあるべし、かくすべしと一貫した命令を下し、その意味を全産業人に徹底せしめられたきものである。願はくば、「正しい作業によつて作業を行ひ、少年工を教育し、現生産量を絶對に確保し更に増産を意圖せよ」と此の如き方針を示されたきものである。全産業人は假令當座は苦しくともそれは正しい道である故に、前途に希望を抱いて邁進することが出来ると思ふ。歐洲の各國は困り切つた果にこの本道に戻つたかのやうである。我國はこの轍を踏まず前途を見透して一日も早くこの良策に就きたく希望するものである。

### 第二節 工場 の 責務

既に國家の方針が定まる以上、工場としては正しい作業を遂行するに要するあらゆる設備と作業法を整備すべきである。即ち工場安全のための物的設備を完備し、安全作業法を制定し、完全組織を育成して、災害防止に必要な工場としての責務を十分に果たすべきである。工員に注意を促す前に工場として考ふべきこと守るべきことを反省し、それを完備することが極めて大切である。人に望まんとするときは先づ自から始むべきである。

### 第三節 工人 の 責務

工人は正しい作業法即ち安全作業法を習得し、それを守ることが國家に奉公する所以なることを知り、作業意志を固めて、いやしくも怪我をしたり出来損じを作つたり、生産機械を損じたりせぬやうに注意すべきである。而して之は單に作業中に於ける心構へでなく、全生活を通して、一意専心工場の安全と生産の正しい向上とを祈念すべきである。そのためには各々の技術を練磨し、正しい作業法を體得すると共に互に助け合ひ、導き合つて、後進をして一日も早く自分以上の工人に育成することを以て自己の責務とすべきである。

### 第四節 協力 一致

國家の大方針に従ひ工場も工員も志を同じくし、相寄り相助け徒らに他に要求することなく、自分を反省して各自の責務を果たすことに依つて工場安全の達成を期するのであるが、目標を同じくし、志を一にし、方法を定め、協力一致、確固不拔の意志を以て事に當る以上、不可能事なしと信ずるものである。

正しい作業即ち安全作業に到達することは中々容易な事ではない。何故なればそれは人の眞似をすることではなく、自分で研究し自分で作るものであるからである。工場主腦者、技術者並に勞務指導者の一大奮起と工員諸氏の自發的



協力とに期待し、工場安全の大方策が一日も早く確立せられんことを希ふものである。

(二六〇二・九・三〇脱稿)

二二〇

昭和十七年十月二十六日 初版印刷 (四、〇〇〇部) 定價 二圓五十錢  
昭和十七年十月三十日 初版發行

勞務管理全書第十五卷「工場安全」奥付

著者 上野義雄

發行者 大井徳三

印刷者 青野仙吉

配給元 日本出版配給株式會社

東京市芝區田村町四ノ二  
東京市神田區淡路町三九

(出文協承認)  
ア 300529



發行所

株式會社

東洋館

東京市麴町區九段一ノ十二

(文協會員 一二〇〇二八)

電話九段 四八四九

振替東京 一七〇三六三

社興新・版整



# 東洋書館・勞務管理全書

東京市麴町區九段一ノ十二  
東洋書館

電話九段(33)四八四九  
振替東京一七〇三六三

新しき大東亞建設のために最も要請せられることは生産の確保である。國民のすべてはこの國家の意志を體して、總力をこれにむかつて集結して來たのである。この國家の至寶たる生産能力をあくまで、よく育て、正しく用ゐ、厚く護り、以て國民各個をその業務に於いて鍊成し、その志を暢達すべき勞務管理の任務の、今日より重大なるはない。産業は全面的に新しい體制を整へねばならぬ秋が來た。そこに於ける勤勞も亦新たな建設的體制にならなければならぬ。この爲の勞務管理が從來の常識的な側面的指導であつたのでは間に合はぬ。生産の經營と技術と協同した専門的指導方法の確立を要する。本全書は斯かる要請に應へんが爲に各方面に情熱をもつて現に働いてゐる専門家が夫々の蘊蓄を傾けた無双の叢書である。 桐原 葆 見

|  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 1※ 戦時勞務管理<br>勞働科學 研究所 桐原葆見<br>(價三〇〇)       | 14※ 産業保健管理<br>勞働科學 研究所 勝木新次<br>(價三二〇) |
| 2※ 産業報國會の組織と運營<br>大日本産業報國會 佐々木正制<br>(價二二〇) | 15※ 工場安全<br>勞働科學 研究所 上野茂雄<br>(價二二五〇)  |
| 3 勞務動員<br>企業調査院 鶴島瑞夫                       | 16 職業病<br>勞働科學 研究所 赤塚京次               |
| 4※ 勞働配置<br>厚生省 厚生技師 狩野廣之<br>(價三八〇)         | 17 産業体育<br>産報 厚生部長 野津謙                |

|   |   |
|---|---|
| 5※ 勞務輔導<br>職業指導所 伊藤村中兼松<br>(價四一五〇)      | 18※ 工場寄宿舎管理<br>大日本産業報國會 佐々木正制<br>(價三〇〇) |
| 6 技能養成<br>厚生省技師 勞務監督官 三井透               | 19 女子勞務管理<br>勞働科學 研究所 桐原葆見              |
| 7※ 勤勞人の鍊成<br>大日本産業報國會 廣崎眞八郎<br>(價三二〇)   | 20※ 傷痍軍人勞務輔導<br>軍事保護院 辻村泰男<br>(價三三〇)    |
| 8※ 職長養成<br>日本製鐵 大内經雄<br>(價三二〇)          | 21※ 徵用勞務管理<br>日本光學 勞務課長 乘富丈夫<br>(價三二〇)  |
| 9※ 勤勞文化<br>日本製鐵 勞務課長 鈴木舜一<br>(價三五〇)     | 22※ 轉業者勞務輔導<br>職業指導所 伊藤村中兼松<br>(價三二〇)   |
| 10 賃金制度<br>厚生省 大西清治<br>厚生技師             | 23※ 工場保健衛生<br>醫學博士 栗原操<br>(價七二〇)        |
| 11 工場青年學校<br>東京帝大 海後宗臣<br>助教            | 24※ 勞務統制法<br>前台北帝大 後藤清<br>教授<br>(價三二〇)  |
| 12※ 疲勞と休養<br>京都帝大 古澤一夫<br>講師<br>(價二一〇〇) | 25※ 婦人勞務者保護<br>勞働科學 研究所 古澤嘉夫<br>(價三二〇)  |
| 13 勞働衛生<br>大阪帝大 梶原三郎<br>教授              | 26 工場食糧<br>勞働科學 研究所 有本邦太郎               |

(※印は既刊)



|                         |                         |                         |                         |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 大日本産業報國會參事<br>廣崎眞八郎著    | 川崎重工業福利課長<br>大塚好著       | 東京高等造園學校教授<br>坂本金吾著     | 大日本生活協會主事<br>榊原平八著      | 大日本産業報國會參事<br>佐々木正制著    | 企畫院調査官<br>菊池春雄著         |
| 日本の勞務管理                 | 産業福利施設                  | 勞務者厚生と環境整備              | 勞務者標準生活                 | 産業報國會の組織と運営             | ナチス勞務動員體制研究             |
| A 5 判 上 製<br>價八・〇〇 送 30 | A 5 判 上 製<br>價三・八〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・五〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・八〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・二〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・八〇 送 20 |

|                         |                         |                         |                         |                         |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 奧谷松治著                   | 東日・大毎<br>松本辰馬著          | 全購販聯・農林部長<br>野崎保平著      | 宇都宮高農教授<br>岩片磯雄著        | 帝國農會<br>稻村順三著           | 金雞學院・陸軍大佐<br>東方籌著       | 高岡高商教授<br>高田源清著         |
| 再編成過程の農業機構              | 日本農業國土計畫論               | 食糧管理(農産物配給統制論)          | 食糧生産の經濟的研究              | 農産物價格論                  | 非常食糧の研究                 | 營團と統制會                  |
| A 5 判 上 製<br>價二・八〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・二〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價四・六〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・〇〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價三・二〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價五・二〇 送 20 | A 5 判 上 製<br>價四・二〇 送 20 |



労働科学叢書 (A5判クローズ装 箱入極上製本) 各册定價その他順次發表

リップマン 労働科学教本 労働科学 田中甚右門譯

エリアスベルグ 労働病理学 興亞工業 山岡節男譯

バーンズ 作業能率研究 労働科学 太城藤吉譯

ミュンスターベルク 精神工学 労働科学 金子秀彬譯

ヘルパツハ 勞務管理の社會心理學的研究 厚生省 三井透譯

メーデー 集團の心理 労働科学 瀨川良夫譯

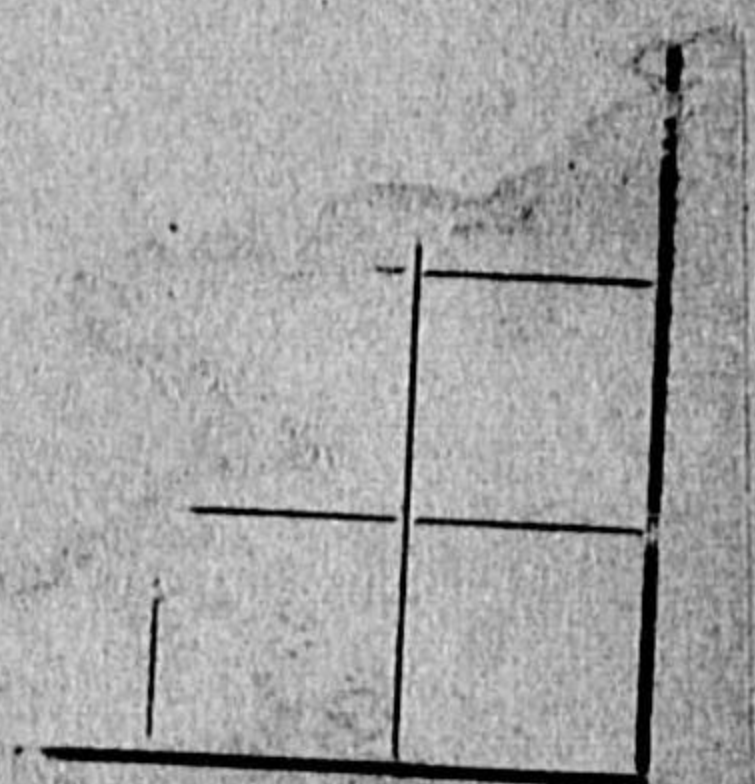
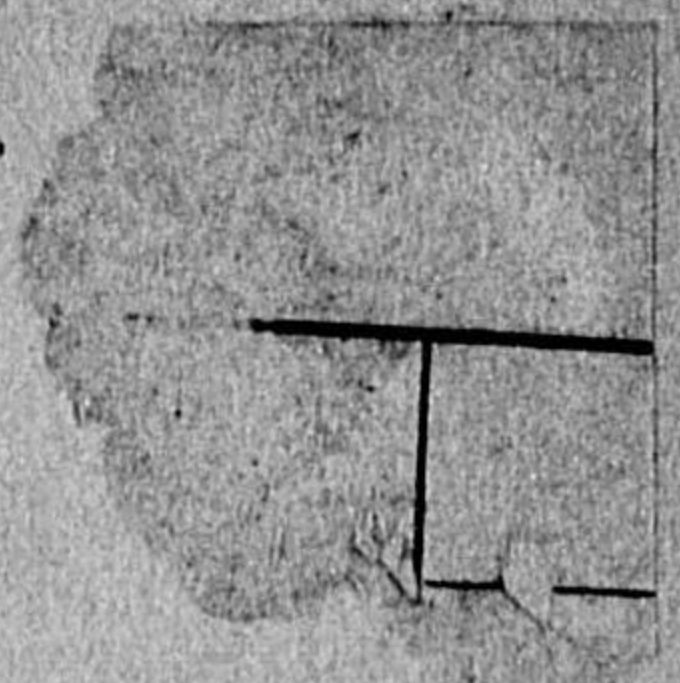
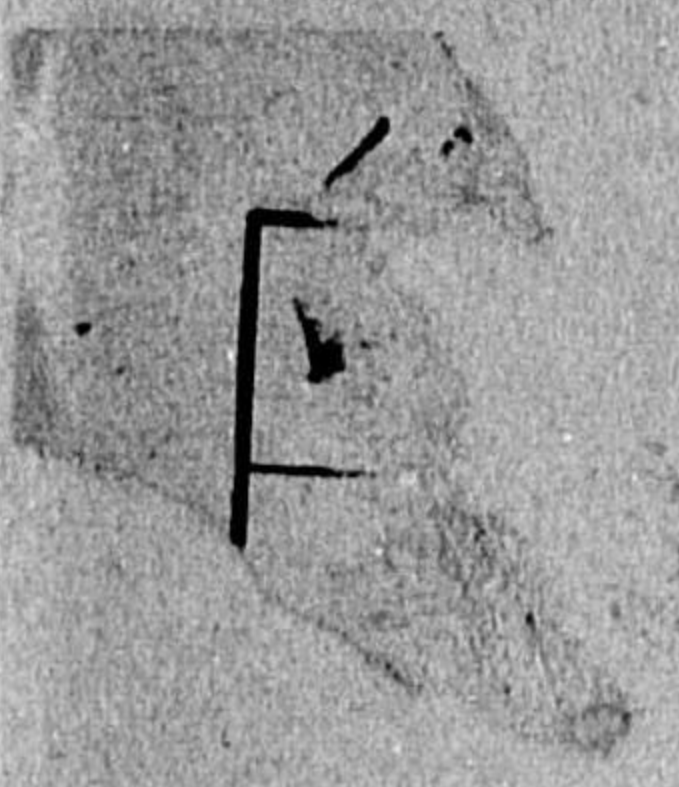
ヘルゼー 勞務者の感情 労働科学 鈴木達也譯

以下續刊

近刊



927  
41





終